

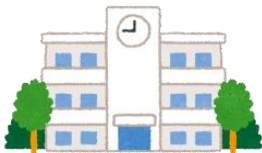
# 北九州市で採れる野菜や農業を もっと身近なものに！

給食協会では食育（地産地消）の一環として、北九州市の農業や学校給食に対する理解を深めてもらうため、収穫体験や交流会をおこなっています。



令和5年6月14日（水）に八幡西区の塔野小学校5年生64名が、若松区有毛の永住さんの畑で給食に納品されている『じゃがいもの収穫体験』を行いました！

ほとんどの児童が初めてのじゃがいも掘り。「じゃがいものひみつを見つけよう」をめあてに、実のなりかたや収穫の方法などを実際に体験学びました。じゃがいもが土中深くからゴロゴロ出てくる様子や、今まで見たことない大きさに児童たちは大喜びでした。収穫袋をいっぱいにして「早く食べたい」「家族に見せたい」と話してくれました。畑から帰る途中には、永住さんが育てた“小玉スイカ（若松クイーン）”をサプライズでふるまっていたきました。甘くて美味しいスイカのおかげで、疲れた体も元気になりました！



収穫体験後、学校へ戻り、生産者の永住さんと農政事務所の宮元さんから農業について話を聞きました。質問タイムではたくさん手が挙がり、一問一答に驚きと感心の声が見聞から聞こえてきました。その後、各クラスで永住さんをはじめ参加者のJA、農政事務所、農林課、学校保健課の職員と一緒に給食を味わいました。その日の給食は、いつもより美味しく、そしてありがたく感じたようです。

収穫体験・給食交流会をとおして、児童たちはじゃがいものひみつだけでなく、市内産野菜のことや生産者の苦労や喜び、おいしい野菜の食べ方や選び方などについて学びを深められた様子でした。



4年ぶりの給食交流♪

